

目次

口 絵

刊行にあたって 取締役頭取 高田 正一

現役員

行是行訓

はじめに1

序 編

第1章 明治時代における前身銀行のあゆみ.....4	
第1節 六十九銀行の創立とその後のあゆみ5	
1. 第六十九国立銀行創立の背景5	
2. 待望の開業6	大蔵省との折衝と開業—明治11年12月20日 開業時の株主
3. 創業当時の状況とその後の動向8	紙幣の発行 相次ぐ増資と時価発行 本店の新築 創業当時の営業ぶり 最初の出張所・栃尾出張所の開設と閉鎖
4. 株式会社六十九銀行に衣替え11	六十九銀行としての新発足と貯蓄業務の開始 新潟支店開設
5. 歴代頭取13	
第2節 長岡銀行の創立とその後のあゆみ14	
1. 新銀行設立の波動14	銀行設立の動機 新銀行出現の評判
2. 長岡銀行の誕生とその後の業況15	設立許可書入手と開業 県内最初の貯蓄業務を兼営 相次ぐ出張所の開設と支店網の充実 本店新築
3. 歴代頭取18	
第2章 大正時代における前身銀行のあゆみ19	
第1節 六十九銀行の伸展20	
1. 営業基盤の拡充と経営姿勢20	支店網の拡充方針を打ち出す 県内支店の開設

長野・東京支店の開設 本店の新築落成 経営姿勢	
2. 大正時代の業況	22
第1次世界大戦とその後の反動恐慌 関東大震災とその後の業況	
3. 歴代頭取	23
第2節 長岡銀行の伸展	24
1. 営業基盤の拡充と経営特質	24
多店舗政策の展開 内規の整備と特質	
2. 大正時代の業況	26
滞貸金の増大と大震災の追い打ち 経営方針の大転換	
3. 歴代頭取	27
第3章 昭和前期における前身銀行のあゆみ	28
第1節 六十九銀行の業容	29
1. 金融恐慌とその影響	29
2. 銀行合同の積極的推進	30
3. 金融恐慌後の六十九銀行	30
行内体制の整備 支店の廃止・新設 定年制の採用	
4. 歴代頭取	32
第2節 長岡銀行の業容	33
1. 金融恐慌とその影響	33
平静であった一斉休業明け 滞貸金の償却と減資	
2. 銀行合同と長岡銀行	34
3. 長岡銀行の店舗政策	35
昭和前期における店舗政策 東京市内支店の整備	
4. 機関誌の発刊	35
5. 歴代頭取	36
第4章 長岡六十九銀行の設立と戦時下の経営	37
第1節 六十九銀行と長岡銀行の合併	37
1. 合併の背景と経緯	37
2. 長岡経済人の動きと存続運動の展開	38
長岡経済人の動き 合併許可	
第2節 長岡六十九銀行の誕生	40
1. 長岡六十九銀行の設立	40
2. 戦時下における経営	40
貯蓄業務の兼営開始と長岡貯蓄銀行の合併 支店網の整備 決算 期の改正 預・貯金種目の整理と普通預金・国民貯蓄組合貯金の新設	

3. 長岡への空襲と本店・市内支店の焼失	42
長岡の空襲と被害状況 戦災後の応急処置	

第5章 前身銀行の概要

1. 東京栄銀行	45	2. 見附銀行	45
3. 越見銀行	46	4. 脇野町銀行	46
5. 六日町銀行	47	6. 寺泊銀行	48
7. 地蔵堂銀行	49	8. 長岡商業銀行	50
9. 関原銀行	50	10. 今井銀行	51
11. 小出銀行	52	12. 雷土銀行	54
13. 十日町銀行	55	14. 水沢銀行	56
15. 神谷銀行	56	16. 栃尾銀行	57
17. 長岡貯蓄銀行	58		

第6章 昭和20～60年代における当行のあゆみ

第1節 戦後経済復興期における当行のあゆみ

1. 終戦後の再建	61
戦災店舗の復旧 再建整備 本店の機構改革	
2. 復興期の店舗政策	63
簡易店舗の設置と支店の増設 簡易店舗の昇格と支店網の整備	
3. 復興期における営業政策	64
救国貯蓄運動の展開 業容の拡大と行名変更・行章制定	
当行独自の定期預金取り扱い	
4. 従業員組合と健康保険組合の誕生	66
従業員組合の結成 健康保険組合の設立	
5. 歴代頭取	67

第2節 高度成長期における当行のあゆみ

1. 経営組織の改革	68
本部の組織・勘定の分離・独立	
2. 長期経営計画の確立	68
長期経営計画導入の背景 長期経営計画の導入	
3. 店舗網の整備・充実と営業ネットワークの構築	70
店舗行政 県外店舗の設置と県内店舗網の整備	
現金自動支払機(CD)の設置 新潟駅前支店と新潟地震	
本店新築	
4. 営業施策の充実	72
大衆化の進展 得意先課(係)の設置 新商品の開発	
5. 株式の公開	74
6. PR・広報活動の活発化と充実	74
PR活動の活発化 PR・広報活動の充実	

7. 事務合理化の推進	76
事務の機械化 事務の合理化・集中化 事務合理化の効果 「事務規程」の制定 メールカー・広域交換制度の開始 為替業務の変革	
8. 人事施策の確立・整備	78
諸規程の制定・改正 福利厚生 of 充実	
9. 行内報の発行	80
10. 記念運動の展開	80
創業85年・設立20周年記念運動 創業90年記念運動	
11. 歴代頭取	81
第3節 安定成長期における当行の経営	82
高度成長から安定成長へ プラザ合意と円高不況 平成景気の発生	
1. 大衆化の推進	84
2. 営業基盤の整備・拡充	84
県内店舗網の整備・充実 小型店舗の設置による県内店舗網の整備 と長野支店の開設 CDオンライン提携によるネットワーク網の整備・ 充実	
3. 新商品開発と大衆化の推進	86
新種預金の開発 融資の大衆化 融資基盤の拡充と技術協力室の 設置 預金残高1兆円の達成	
4. 人事施策の整備・充実	89
人事考課制度と資格規程の改定 高齢者・男女の均等な待遇などへ の対応 研修・トレーニー制度の充実 福利厚生 of 充実	
5. 記念運動の展開	91
創業100年記念運動 創業110年記念運動	
6. 歴代頭取	93
第4節 コンピュータリゼーションの推進	94
1. オンラインシステムの開発	94
電子計算機の導入と稼働 総合オンラインへの道	
2. オンラインシステムの進展	95
全店総合オンラインシステムの完成 第2次オンラインシステムの 完成 第3次オンラインシステムの開発	
第5節 金融の自由化・国際化と業務分野の拡大	96
1. 外国為替管理法の改正と外国為替業務の拡大	96
外国為替業務の拡大 外国部の設置とコルレス認可	
2. 証券業務の開始	98
新銀行法と証券業務の開始 デーリング業務の開始	
3. 周辺業務の拡大	98

本 編

第1章 日本経済の構造改革と金融革新	102
第1節 平成景気とその崩壊後の日本経済の足取り	103
1. 外需依存型経済から内需主導型経済へ(昭和60～61年)	103
円高と原油安 円高不況の克服	
2. 平成景気とバブルの発生(昭和62～平成2年)	103
内需の拡大 バブルの発生 バブル抑制策の実施	
3. バブル崩壊とその後の景気低迷(平成3～5年)	107
平成景気の終了 企業におけるリストラクチャリングの進展	
4. 緩やかな景気回復から後退局面へ(平成6～10年)	110
緩やかな景気回復 景気後退局面へ	
第2節 経済の構造改革と規制緩和の推進	112
規制緩和 規制緩和の効果	
第3節 金融システムの動揺とその対応	114
1. 金融システム安定化への対応	115
共同債権買取機構の設立と活動状況	
信用組合に対する受け皿銀行の設立	
信用組合以外の金融機関における対応	
(株)住宅金融債権管理機構の設立 早期是正措置の導入	
2. 銀行の不良債権開示	118
第4節 県内経済・金融情勢	119
1. 県内経済の概況	119
新潟県の経済成長 主な経済活動別県内総生産額の動向	
高速交通体系の整備と企業誘致	
2. 県内の金融情勢	126
店舗などの動向 預貯金の動向 貸出金の動向	
第2章 当行最近10年間のあゆみ	131
第1節 金融環境の変化に対応した経営体制の確立	131
1. 長期経営計画の策定	131
第8次長期経営計画(昭和61～63年度)	
第9次長期経営計画(平成元～3年度)	
第10次長期経営計画(平成4～6年度)	
第11次長期経営計画(平成7～9年度)	
2. 役員の異動	134
高田頭取の就任 その他の役員の異動	
3. 環境の変化に即した経営組織の改正	137
本部組織の改正 営業店組織の改正 委員会の設置	

4. 資本の充実	146
BIS規制(国際統一自己資本比率規制)への対応 増資	
5. 店舗網の拡充・整備	148
店舗行政の自由化・弾力化 当行の店舗政策の基本方針	
店舗の新設 店舗の廃止 出張所の新設・支店昇格・廃止	
店舗の新築・移転 店名の変更 女性だけの店舗誕生	
店舗外現金自動設備の増設	
第2節 金融の自由化と国際化の流れに対応した営業推進活動	157
1. 金融自由化の進展と新商品の開発	157
預金金利自由化の流れ 金融自由化による新種預金の開発	
個人向けローン商品の開発 事業者向けローンの開発	
2. 個人マーケットへの対応	169
女子渉外制度、渉外女子パート制度の実施	
メールオーダーサービスの実施	
テレマーケティングセンターの設置 クローズド懸賞の実施	
年金対策の強化 給与振込口座への対応 個人ローンの推進	
五大公共料金の口座振替推進 UCカード・JCBカードへの対応	
3. 法人マーケットへの対応	176
営業推進活動の整備・強化 中小企業支援策の推進	
新貸出基準金利体系の導入	
4. 国際化ニーズへの対応	179
香港駐在員事務所の開設 アジア室の設置	
中国・ベトナム貿易投資視察団の派遣	
全店両替店の実施・外国為替取扱店の拡充	
海外コルレスネットワークの拡充	
5. CS向上活動の展開	182
CS向上の諸施策	
6. イメージモデル・キャラクターなどによる広告宣伝活動	184
イメージモデルの活躍 キャラクターの採用 「第35回新潟広告賞」	
の受賞 「インターネットによるホームページ」の開設	
第3節 各種業務分野への進出	186
1. 証券業務の拡充	186
証券業務の推進 証券業務の実績	
2. 信託業務への進出	188
信託業務への参入 地域貢献を念頭にした推進活動	
3. 関連会社の設立	189
第4節 エレクトロニック・バンキングの推進	191
1. 第3次オンラインシステムの完成	191
開発の背景とプロセス 第3次オンラインシステムの特徴	
計算係事務の省力化と「一算ゴメイ運動」の実施	

2.	エレクトロニック・バンキングサービスの拡充	193
	各種資金管理・情報サービスの開発	
3.	CD・ATMの利便性向上	197
	高性能CD・ATM機の導入	
	CD・ATM稼働時間延長・祝日稼働などの実施	
4.	営業店事務の効率化	199
	営業店事務の機械化 営業店事務の集中化	
	「新事務体制」のスタート	
5.	「事務センター」の建設	204
第5節	事務の堅確化	206
1.	事務堅確化の背景	206
2.	事務堅確化のための諸施策	206
	組織の改正 事務管理マニュアルの制定	
	事務表彰制度の改正 規程・要領の制定・改正	
第6節	新人事制度の採用と働きがいのある職場づくり	211
1.	人事制度の充実	211
	人事制度の改正 人事企画課の設置 定年の延長	
	永年勤続者表彰制度の改正 エリア勤務制の制定	
	ライフプラン支援制度の制定	
2.	人材の育成	215
	長期人材育成計画「北銀チャレンジプラン」の制定	
	「研修センター」の完成 研修制度の充実	
3.	福利厚生 of 充実	219
	厚生課の設置 制度休暇の充実 その他の休暇・休業制度の実施	
	寮の充実 早帰り推進運動の実施 「北越銀行体育館」の完成	
	女子制服の更改 「越友会」の発展	
第7節	地域社会とともに	224
1.	社会貢献活動の展開	224
	地域開発プロジェクトへの参加 財団法人 北銀奨学会	
	トキ愛護募金 北越銀行賞	
	すこやか北越銀行杯新潟県小学生バレーボール大会の協賛	
	NHK 交響楽団演奏会の協賛 北銀まごころの会	
	営業店などの活動	
2.	当行のスポーツ活動	228
	北越銀行女子バレーボール部の活躍 北越銀行スキー部の活躍	
第8節	創業120年を迎えて	230
	経済研究所の株式会社化 行史の編纂 記念アルバム of 制作	
	記念講演会 of 開催 歴史展 of 開催 北親会会員などへの記念品の	
	贈呈 新キャラクター「ファイベル」 of 採用	
	創業120年 of キャッチフレーズ・シンボルマーク of 採用	

ホクギンフォトコンテストの実施 スローガンの募集
事務センターの建設

第9節 業績の推移	235
1. 預金の推移	235
預金残高とシェアの推移 預金科目別構成比の推移 預金者別構成比の推移	
2. 貸出金の推移	237
貸出金残高の推移 業種別貸出残高の推移 貸出金担保別内訳の推移 当行の不良債権について	
3. 有価証券の推移	240
4. 収益の推移	241
終章 21世紀への羽ばたき	242
1. 変革へのスタートに立って	242
2. 21世紀への羽ばたき—第12次長期経営計画のスタート—	243

口 絵

資料編

合併変遷図	256
預金・貸出金の推移	258
店舗数の推移／従業員数の推移	260
主要勘定の推移／自己資本の推移	261
株式の状況	262
役員在任一覧表	263
本部機構の変遷図	264
本部歴代部長一覧表	266
業務機構図	268
営業店小史 (店舗配置図)	270
財務諸表	298
年表	306

主要参考文献、資料・写真提供

あとがき

【歴史の散歩道】

1. 河井継之助の理財力と銀行家外山脩造	2
2. 開港場新潟と新潟為替会社	5
3. 国立銀行の設立を目指して～三島億二郎・岸宇吉の奔走～	6
4. わが国銀行簿記の先駆者小林雄七郎	7
5. 明治天皇の北陸巡幸に際しての三島億二郎と大蔵卿大隈重信との懇談	8
6. 長岡商会・長岡商業諮詢会と第六十九国立銀行	9
7. 三島億二郎、関矢孫左衛門と北越殖民社	10
8. “石油の町長岡”の活況と北越鉄道	12
9. 初代頭取関矢孫左衛門の役割	13
10. 初代頭取山口権三郎の活躍と長岡銀行の盛業	17
11. 松井須磨子が来演した六十九銀行本店新築落成記念祝賀会	22
12. 当行創立者、三島億二郎への賛仰と建碑	29
13. 六十九・長岡両行の合併による本店銀行存続運動と小原直・山本五十六の尽力	39
14. 長岡の空襲と長岡六十九銀行	42
15. 小出金融社と後身小出銀行への第六十九国立銀行の協力	53
16. 野口雨情選『童謡集 雪、貯金』と、大正ロマンの長岡貯蓄銀行	60
17. 行名変更と行章制定	65
18. 「米百俵の精神」と北銀奨学会	81
19. 岸宇吉の子孫、当行を来訪	88
20. 優秀会社史賞を受賞した『創業百年史』	92
21. 「湾岸戦争」で揺れた歳末、山本五十六の米国油田視察のサイン発見	109
22. 三島億二郎像の建立に向かって	124

【トピックス】

1. 首都圏からの宅地購入者で賑わったバブル時の長岡ニュータウン	107
2. 金融不安と「タンス預金」の増加	116
3. 「都市景観大賞」・景観100選部門で最高賞を受賞した「千秋が原地区」	121
4. 多様化した県内金融機関のボーナス作戦	171
5. 当行のイメージホテル・中山忍の活躍	185
6. 事務開発部、第3次オンラインシステム開発のエピソード	192
7. 審査部・システム部開発の融資支援システム稼働	200
8. お先に体験!!リフレッシュ休暇	220
9. 「北銀まごころの会」運営委員有志のボランティア体験報告	227
10. 原美緒、思い出の絵画・赤レンガの旧北銀本店を寄贈	232

[凡 例]

1. 収録期間

前身銀行創立の背景を起点とし、当行が創業120年を迎えた平成9年12月20日を含む決算期の平成10年3月31日までとした。

2. 用字用語

原則として常用漢字、現代かなづかい、新おくりがなを使用した。ただし、専門用語、歴史上の史料などはこれによらないところもある。

3. 表記

(1)人名については、敬称を省略した。

(2)法人格名称は、(株)などと略記、あるいは省略した。銀行名については、法人格名称を省略した。

(3)「県内」「県下」「本県」とあるのは、新潟県を指す。

(4)諸計表中の「0」は単位未満の計数、「—」あるいは空欄は該当数字なしを表す。
